

要点

1. 令和5年度呉市中小企業・小規模企業振興会議ワーキンググループ中間報告（事務局発表）

（1）発表の主な要点

ア 実施中の施策の進捗（令和5年10月末時点）

①脱炭素化ガイドブック作成

- ・ 2, 000部作成済
- ・ シンポジウム等で事業者配布し、脱炭素経営促進中

②脱炭素経営に向けた計画策定の補助

- ・ 採択件数：18件（予算上限到達）

③脱炭素経営に向けた設備導入の補助※

- ・ 申請件数：0件

※計画策定後に設備導入となるため、現状0件。年度末には予算上限到達見込み。

イ 議論中の施策

①脱炭素化技術事業化可能性調査支援

- ・ くれ産業振興センター事業「産学連携スタート補助金」に脱炭素促進枠を新設し、市内企業と大学、公設試験研究機関等で構成される産学官の共同研究グループ等が行う、事業化可能性評価（F/S）について補助を実施してはどうか。

②令和6年度以降の脱炭素経営に関する活動

今後も脱炭素経営は中小企業・小規模企業の課題となるため、ワーキンググループでの活動終了後も継続して支援する方法を議論中

ウ 呉市中小企業・小規模企業振興基本条例実践シンポジウム

- ・ 開催日：令和5年10月21日（土）
- ・ 参加者：44名

（2）委員・アドバイザーからの主な意見

- ・ くれ産業振興センターが行う現行の産学連携スタート補助金は、新技術・新製品・新サービスの開発又は生産性向上に関し、大学等へ委託して行う初期段階の調査・試験・研究費が補助対象（補助額：最大50万円、補助率：10/10）
- ・ 大学等と連携しないと個別の事業者だけではできないことがたくさんあり、次のステップとなる事業化可能性評価（F/S）についての補助が事業化された場合には、くれ産業振興センターとしてもしっかりと支援していきたい。
- ・ 実施中の施策について、多くのニーズがあるとのことで、支援そのものの達成感はあると思うが、その後の効果検証をすることも大事であり、しっかりとPDCAサイクルを回してほしい。

2. 令和6年度 重点取組テーマ（2グループに分かれてのグループワーク）

（1）議題の内容

- ・ 呉市中小企業・小規模企業振興基本条例の施策の9つの基本方針の中から、令和6年度の重点取組テーマについて、2グループに分かれて議論した後、全体で意見交換
- ・ 事務局からは「人材確保（基本方針5）」と「市内調達（基本方針7）」の2つを提案

（2）発表内容

【Aグループ】

ア 令和6年度に取り組むべき重点取組テーマ

「経営基盤の強化」に基づき「人的資本経営」（基本方針2）

イ 主な意見

- ・ 人手不足は呉市だけではなく全国的な課題であり、2人でやっていたことを1人でできるようにするなど生産性を高めていかなければならない。
- ・ 経営側にそのような人的資本経営の目線があるかが課題

【Bグループ】

ア 令和6年度に取り組むべき重点取組テーマ

「人材の育成及び雇用の安定」に基づき「人材不足」（基本方針5）

イ 主な意見

- ・ 高校卒業後、大学へ進学する人が多く、高卒就職者が減っている。それを補うためにはDXを促進しなければいけない。また、誰でも良いわけではないので、良い人材をほかから引っ張ってこなければいけない。
- ・ 人材育成については、会社内の流動性を高めて、外から刺激を与えることが重要

（3）全体意見交換での委員・アドバイザーからの主な意見

- ・ 今の若い世代はスキルアップや色々な経験をしたいとの思いから、3年程度で退職する人が多く、同じ会社ずっと勤めようという考えがない。
- ・ その様な中で、呉は魅力あるまちだということをしっかりと発信し、呉市内の企業でもスキルアップできる場所はたくさんあることを周知できれば、退職した人が広島市などの市外に出て行くことなく、人を地域内で循環することができる。
- ・ DXなどによりラーニングカーブを短くし、習熟期間を短くするのも良いのではないか。DXで3年でできるようになっていたことを1年半でできるようにし、習熟期間を短くすれば、4～5年で転職し人材が流動化しても大丈夫になる。
- ・ 大学進学のため高卒が取れないとのことであるが、中には何となく大学に行っている人もいます。高卒で早く職に就けば、その分早く技術も上がる。そのようなインセンティブを提示できれば次に続く者が出てくるはず。
- ・ 人材の流動化に対して環境を作るのは分かるが、仮にラーニングカーブを短くしても、採用は別問題で選ばれない企業もたくさんある。
- ・ 同友会でも教育期間の短縮に取り組んでいる企業は少なく、良いかもしれない。